

すずらん「物語」

～訪問介護編～

「この仕事の喜び・やりがい・使命」

～〇〇さんとの出会いを通じて感じたこと～

「ケアステーションすずらん祖師谷大蔵」は、東京世田谷区、小田急線「祖師ヶ谷大蔵駅」から5分程の商店街の一角に事業所を構えています。

この地域には、かつて「ウルトラマン」を生み出した円谷プロがあり、駅前の広場には、ウルトラマンの像が立ち、また駅から南北と西に延びる活気ある商店街は「ウルトラマン商店街」という名称で、その名の通りパワフルで常に人で賑わっている商店街です。また事業所からは「成城学園駅」も程近く、こちらの地域は落ちついた住宅街が広がっており「閑静」という言葉がしっくりくる土地柄です。祖師谷、成城の地域には大学もいくつかあるため、学生の姿も多く活気のある地域と言えます。

そのような地域に居宅介護支援事業所との併設で「ケアステーションすずらん祖師谷大蔵」の訪問介護事業所を開設したのは、平成16年5月のことでした。

「要介護の状態になったとしても、住み慣れた我が家で暮らし続けていきたい」

「今は、人の手助けが必要な状況だけど、早く元気になって前みたいに自分の事は自分で出来るようになりたい！」

「家族の介護が必要な状態に……。自宅で介護してあげたい気持ちはあるのだけれど、本当に自分だけでできるのかが不安だし、心細い気がして……」

ご本人様の想い、ご家族様の想い。それぞれお一人お一人の「想い」に何とかしてお応えしていきたい、少しでもお役に立つことで喜んでいただきたい。

しかし、介護保険という枠組みの中のサービスだけでは、全ての「想い」にお応えできないことは確かにあるかもしれない。

それでも、私たちに「今」出来る、精一杯のサービスを、サポートを、そして、心を多くの方に届けて行きたい。

このような考え方や想いは、13年経った今でも、変わることはないのですが、このサービスの中身や意義、使命といったものを外部の方にどのようにお伝えしていけばいいのだろうか、伝えていく事の難しさを日々感じておりました。

そこで今回は、日々の訪問介護サービスを少しでも「見える化」したり、訪問介護という仕事の「やりがい」「喜び」を少しでも多くの人に知っていただくために、「物語」という形にしてお伝えできないかと考えました。

少し長い文章となってしまいますが、最後までお読みいただければ幸いです。

ケアステーションすずらん祖師谷大蔵として、開設してからこの13年間、多くの方との出会いや別れの中で、たくさんの事を学ばせていただく事ができました。

「人が人をサポートする時、大切なことはどういう事なのか」

「人が人にサポートされる時、どんなことを大切にしたいだろうか」

「認知症の症状や様々な病気の症状がみられるようになったとしても、その症状ばかりに注目して接するのではなく、まず当たり前「人」として、その方の想いや感情を大切にすることが必要なのだ」

ということなど、多くの事を学ばせていただきました。

そして「この仕事をしていて本当に良かった！」と思わせていただくことも、たくさんたくさんありました。

ここで、一つだけご紹介させていただきます。

それは数年前の事です。

〇〇さんと私たちの出会いは、〇〇さんが病院から退院され、ご自宅での暮らしを再開して間もなくの事でした。

もともとスポーツをされており体を動かすことが大変好きな〇〇さん。

しかし、退院された時は、介護が必要な状態で、体を自由に動かすどころか一人では散歩に行く事も難しい状態でした。

そこで、すずらんの訪問介護サービスとして、外出の支援、入浴の介助、そしてリハビリ施設へ通うための準備などのお手伝いなどをさせていただく事となりました。

〇〇さんは「以前のようにまた元気になって、スポーツをやりたい！」と言われ、とても頑張ってリハビリ施設にも通われていました。

私たちも、その〇〇さんの「想い」を何とか現実のものとしてあげたい。元気になっていただきたい。そのためには、どのようにサポートをしていく事が必要かを考えていきました。

そこで、「ご本人ができる事は、出来る限りご自分でやっていただく」

「手を貸すのは、簡単だけれど、ご自身でいろいろな事が出来るような関わり方をしていこう」と決めました。

しかし〇〇さんは「ヘルパーさんにお世話にならなくてもいいようになりたい。」という気持ちがある一方、

「また転んだりして、病院に戻りたくない」という気持ちからか、一人で行動することに対して、とても慎重になっているご様子がうかがえました。

「早く元気になりたい、良くなりたい」という気持ちと、
「慎重に、焦らない」という気持ち。

私たちは、その〇〇さんの気持ちを尊重すると同時に、精神的なサポートも行いながら、少しずつ時間をかけて、〇〇さんの「願い」「想い」の実現に向けてのサポートを続けていきました。

「一人では怖くて風呂に入れない」と言われた時も全てをサポートするのではなく怖い部分や不安な部分をそっとお手伝いし、出来る部分はどんどんご自身で行って頂きました。そうして少しずつ出来ることが増えていく事で不安が取り除かれ、自信の回復につながるように心がけて支援を行っていきました。

そして、2年の月日が経過した頃、

〇〇さんの「できる事」が以前よりだいぶ多くなり、お一人で外を歩くことが出来るまでに回復をされました。

リハビリ施設における専門的なリハビリテーションと、ご自宅における私たち訪問介護の自立支援の取り組み。そして、ご家族の励ましとサポート。

そして何より、〇〇さんの「前みたいに元気に生きたい」という強い意志と粘り強い努力。

その結果、「願い」「想い」が現実のものになったのではないかと思います。

そして更に、自宅内での生活においては、人の手を借りる必要もなくなり、私たちの訪問介護サービスもこの時点で終了という事になりました。

サービスは終了しましたが、住み慣れたご自宅において「前みたいに元気に生きたい」という〇〇さんの「想い」の実現に、私たち訪問介護事業所として少しでもお力になれたのであれば、こんなに嬉しいことはありません。

そして、今でも〇〇さんがお一人で街を歩かれているのを時々お見かけします。〇〇さんが私たちに気が付いて元気良く手を振って挨拶をしてくださる事もあります。

このような時「人の幸せのためのお役に立てているという実感」を、
そして「この仕事をやっていて、本当に良かった！」

と心の底から思うのです。

人が人を直接的又は間接的にサポートする仕事において、時には上手くサポートができなかったり、ご本人様やご家族様とのコミュニケーションが上手く取れなかったりする時も正直あります。

しかし、ここで自ら反省したり次の支援に向けて創意工夫をしたりしながら、少しずつでも前に進んでいくと、その先にはまた違う景色が見えてくると思うのです。

最後になりますが、〇〇さん。私たちは、〇〇さんから、大切なことをたくさん教えていただきました。本当にありがとうございました。そして、いつまでも大好きなご自宅でお元気にお過ごしくださいね。

(最後までお読みくださり、ありがとうございました。)